



なごあるきコース①江戸の風情をめぐる～名古屋城下の町並み、四間道～

江戸の風情をめぐる 名古屋城下の町並み、四間道

江戸時代初期に開削された堀川に沿い、中橋から四間道、名古屋城に続くこの地域は、尾張名古屋の一大物流拠点でした。五条橋につくられた船着場を中心に清洲越しにより移り住んだ商人やそこで働く人々によって全国から様々な荷物が荷揚げされ、また送り出されました。四間道の東側にはなまこ壁と白壁の土蔵が立ち並び、西側には商人や町人、武士たちの住まいが広がっていました。美濃路へつながるこの道は多くの旅人や人々の往来で大変な賑わいだったことでしょう。皆さんも江戸時代の旅人の気分を味わってください。

1 浅間神社（下浅間）

一六四七年に勧請され、女性の鑑として崇敬される木花開耶姫神を祭神として祀ります。境内には三〇〇年以上の樹齢を誇るケヤキがあります。



2 四間道

一七〇〇年の元禄の大火後、延焼を防ぐために道幅を四間に広げたことが名前の由来です。当時は、上町と下町を分ける境界線になっていました。現在では、この界限で最も知られたスポット。白壁の土蔵や古民家、一つずつ違う鬼瓦等が有名です。



3 川伊藤家（非公開）

木造瓦葺平屋 一部二階建て葺町屋造りのこの建物は、一六一四年に移住した代表的な清須越商人の住まいです。江戸中期から三期に渡り建てられ、蔵は当時の防火建築の実例と言われています。昭和六十二年に県指定文化財に指定されました。



4 五条橋

堀川開削当時に架けられ「堀川七橋」の一つ。清須越の際に移築。江戸時代にはこの橋のたもとに船着場があり、全国各地から様々な物資が荷揚げされ、また送り出されていきました。この街が発展していく礎になった橋です。



5 堀川

徳川家康の命により、一六一〇年に福島正則が開削した運河。江戸時代、名古屋の物流の大動脈として活用され多くの船がこの川を行き来していました。現在は、美しい堀川の復活のために様々な活動が行われています。



6 専修寺名古屋別院

江戸時代、名古屋最大級の御開帳と言われ、「尾張名所図会」に高田本坊と紹介され、その盛大ぶりがうかがえます。本堂は戦災で焼失しましたが、山門と鐘楼は当時の面影と、精巧な江戸時代の作風をよく残しています。



7 慶栄寺

一五〇四年創建。一七二四年、この地に移りました。茶室が有名で、聖徳太子を祀った「太子堂」、京都東山から移した足利義政好みの「松濤庵」があります。近年、折り畳みの茶室が発見され、徳川美術館に寄贈されました。



8 隅田神社

一六八八年に疫病防止と安全祈願の為に創建された神社です。大通りから裏通りに抜ける小路の途中にひっそりとある神社。昔にタイムスリップしたかのようなロケーションが、とてもおすすめです。



9 巾下学問所

巾下橋の近くには巾下学問所跡の表札があります。武士や商人が多く住んでいたこの地域では、子供達にも積極的な学問をさせていました。そのため数多くの寺子屋や学問所がこの地域にはありました。



10 名古屋城

平安時代には、「那古野」と呼ばれていました。一五〇〇年代には今川氏親により「那古野城」が築かれ、その後、織田信秀が奪取。その息子信長が城主になった時代もありました。一六一〇年、家康の命により、「名古屋城」が築かれました。



<おすすめコース>

★国際センター駅（2番出口）

徒歩5分

① 浅間神社

徒歩5分

④ 五条橋

徒歩10分

⑨ 巾下学問所跡

徒歩5分

★ ⑩ 名古屋城正門

距離：約1.5km 所要時間：約25分